

国語教育私見

杉田武夫

国語は、一定の民族が、共通に用いる言語  
 としていえる。これを、現在を基準に日東語を国語(一定の)  
 としていえる。これをも、時間的横に切つて考  
 えよと、同一民族、は同一時代に、同一の共通  
 した国語を用いてゐる。現代国語といわれ  
 るのが、常にこれである。又、時間的縦に切  
 つて考へると、同一民族でも、時代々々によ  
 つて、常にゆがしつ同い国語を、常に用いていた  
 とはいへない。  
 したがう、国語には、常にいつても、現代語と古  
 語とが存してゐる。  
 国語教を、常にこころした国語の全体を、教  
 育することの、常に国語教育の、常に  
 常には、常に現代語と古語とをいえる。現代語  
 は、今日の社会に生ずる、今日のわれわれの  
 生活を円滑に進行させるために、一日として欠

山田書院蔵用紙